学力向上フロンティア事業中間報告書

都道府県名	秋田県

Ⅰ　学校の概要（平成15年４月現在）

学校名	男鹿市立男鹿東中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	４	４	３	１	１２	２１
生徒数	１１４	１３１	９８	１	３４４	

Ⅱ　研究の概要

1　研究主題

個を伸ばす授業改善の工夫　　～確かな学力の定着を目指して～

2　研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

○　全学年の国語・社会・数学・理科・英語で実施

一人一人に確かな学力を定着させるための授業改善の工夫はどうあるべきかということについて昨年度から取り組んできている。また，複数の学年及び教科において多様な実践を蓄積し，他への波及を目指していることによる。

・少人数学習及び習熟度別学習を実施する学年・教科

１～３年　数学（習熟の程度に差が生じやすい学習内容があるため２Ｃ３Ｔの習熟度別学習を実施）

２・３年　英語（全単元を通じてより個に応じる学習展開を目指すため通年で２Ｃ３Ｔあるいは１Ｃ３Ｔの習熟度別学習を実施）

１・２年　理科（生徒の興味・関心や技能面の習熟の程度に応じるため学習内容に応じて１Ｃ２Ｔの少人数学習を実施）

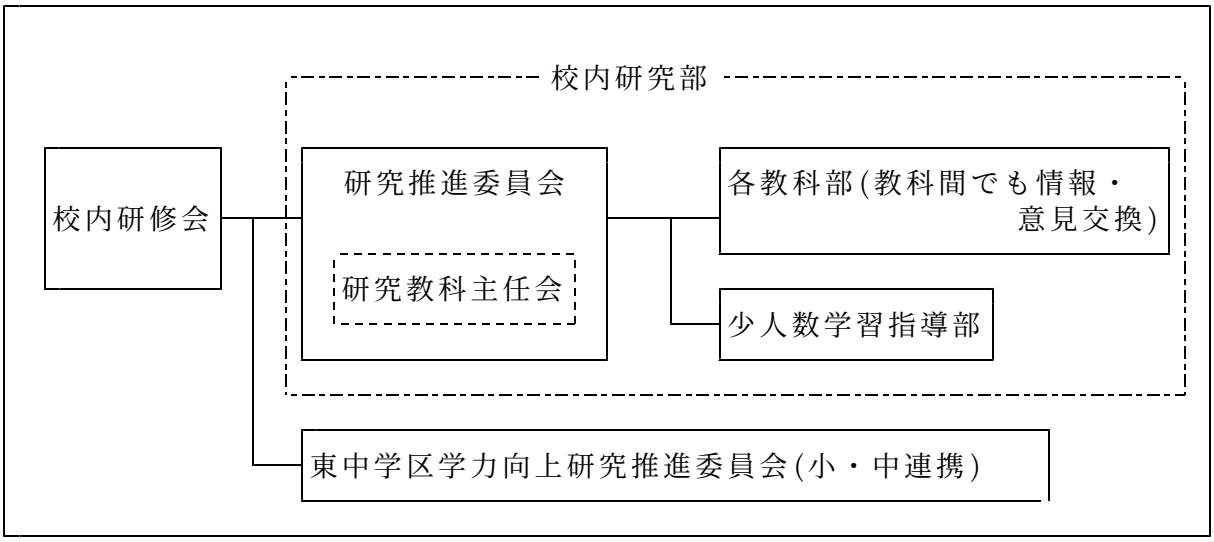
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 個を伸ばす授業改善の工夫　～確かな学力の定着を目指して～ 「個に応じる」「個を生かす」「個を伸ばす」３つのアプローチを工夫し，「確かな学力を身に付ける過程で目指す生徒の姿」が見られる授業実践を目指す。 ○　研究の見通し 生徒の実態を的確に，かつ多面的に把握した上で，一人一人が能力や資質，特性などを生き生きと発揮しながら学習目標を確実に達成することができるような学習過程を構築する。そうすることで，「自ら学ぶ」という学習の構えが働き，その結果一人一人に確かな学力が定着するであろう。 ○　研究の内容・方法 (1) 個に応じた指導のための教材を工夫改善する。 ①　生徒の実態把握を工夫する。 ②　「個に応じ，個を生かし，個を伸ばす」ことを目指した学習過程を工夫改善する。 ③　「授業改善の視点　８項目」の共通理解・共通実践を図る。 (2) 個に応じた指導方法・指導形態を工夫改善する。 ①　ＴＴ，少人数指導等の最も効果的な活用方法を検討する。

	②　効果的な習熟度別のグループ編成を工夫する。 (3) 評価を生かした指導の改善を図る。 ①　単元の評価規準を見直し，資料として蓄積する。 ②　ねらいの実現の程度の的確に評価するとともにそれに応じた支援のきめ細かな工夫を図る。 ③　観点別評価カードを作成し，それを活用した評価活動を行う。

平成16年度	○　テーマ 個を伸ばす授業改善の工夫　～確かな学力の定着を目指して～ 「個に応じる」「個を生かす」「個を伸ばす」という３つのアプローチを工夫し，「確かな学力を身に付ける過程で目指す生徒の姿」が見られる授業実践を推進する。 ○　研究の見通し 生徒の実態を的確に，かつ多面的に把握した上で，一人一人が能力や資質，特性などを生き生きと発揮しながら学習目標を確実に達成することができるような学習過程を構築する。そうすることで，「自ら学ぶ」という学習の構えが働き，その結果一人一人に確かな学力が定着するであろう。 ○　研究の内容・方法 (1) 個に応じた指導のための教材を工夫改善する ①　生徒の実態把握の方法についてさらに検討を加える。 ②　各教科で「個に応じ，個を生かし，個を伸ばす」ことを目指した学習過程を工夫改善する。 ③　生徒のつまずきを解消させるために効果的な教材や応用・発展的に学習させるために効果的な教材を開発する。 (2) 個に応じた指導方法・指導形態を工夫改善する。 ①　ＴＴ，少人数指導等の効果的な活用方法を検討し，効果を検証する。 ②　少人数学習において，コースごとに学習課題・展開などを工夫する。 (3) 評価を生かした指導の改善を図る。 ①　生徒の実態や毎時間の評価を指導に生かす方法を工夫する。 ②　観点別評価カードを用いた評価活動を継続する。 (4) 学区内小学校との連携を図る。 ①　各教科ごとに「授業改善」に視点を当てた連携の基盤をつくる。 ②　９年間を見通した望ましい学習習慣の定着を目指した取り組みを継続する。 (5) 生徒の変容を客観的に把握し，成果と課題を明らかにする。

(3) 研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１　研究の成果

○　個を伸ばす授業改善ということについて各教科で具体的な実践ができた。

・生徒の実態把握を，各教科でよりきめ細やかに行った上で学習過程を組んだところ，生徒のつまずきなどにも対応できる様々な教材をあらかじめ準備するなどして授業に臨むことができ，学力の定着を目指した授業づくりに近づくことができた。また，指導に生かすことができる実態分析の仕方として，数学科ではレディネステストの結果からＳ－Ｐ表を作成した。これにより，学習集団全体の傾向の把握だけにとどまらず，コースごとあるいは生徒一人一人に目を向けた実態把握が可能となり，それが学習展開の工夫や個への支援に結び付いた。

・各教科で，「個に応じ，個を生かし，個を伸ばす」ための具体的な手立てを講じて授業づくりをすることができた。次にその一例を示す。

【国語】・自己評価カードの活用(生徒の感想等から生徒の学習状況を把握する)
　　・複数の課題から選択させる課題選択学習

【社会】・グループの情報交換と話し合い活動の活性化
　　・【個→グループ→全体→個】の思考活動を意識した学習展開

【数学】・習熟の程度に応じたコース別の学習シート及びヒントカードの作成
　　・コース別の生徒の実態に応じた学習課題の提示の仕方
　　・実態に応じた発展的な問題の提示

【理科】・自作教材の活用
　　・習熟の程度も加味した「広げる学習」「深める学習」の実施

【英語】・コースに応じた学習シートの工夫
　　・上位のコースではフリーカンバセーションで英語を使う喜びを実感
　　・コースの生徒の実態に応じて視聴覚教材を多用し，興味付けを図る

・「授業改善の視点８項目」を示し，本校において確かな学力の定着を目指す授業のポイントを共通理解し，実践した。今年度は，特に学習課題を明確にすることをどの授業でも行った。

○　生徒にとっての必要感を考えた上で，少人数学習を工夫し，実践することができた。

・少人数学習を実施するにあたり，生徒の実態と学習内容(教科の特性も含む)を考え合わせた上で，そのよさを効果的に取り入れた単元の指導計画を立てることができた。

・少人数学習に対する生徒の意識は大変肯定的であり，意識調査からは学習に対する意欲の高まりも見られる。また，少人数学習の経験が長く，複数の教科で行っている学年の方が，その効果を実感していることも分かった。

【少人数学習に関する意識調査】

・勉強の内容がよく分かる　　１年生→68．5%，２年生→81．2%

・先生や友達の話をよく聞いている　１年生→75．4%，２年生→89．1%

・自分の力で学習問題を解決しようとしている
　　１年生→61．4%，２年生→84．4%

・少人数学習でその教科が好きになってきている
　　１年生→80．7%，２年生→89．7%

○　評価規準をもとに，生徒用観点別評価カードを作成した。

・毎日の授業における評価活動を，単元ごとに観点別にまとめたものを１枚のカードとして作成した。そのため生徒は，学習のどこの活動で自分は高まったのか，あるいはどこが努力すべき点なのかを具体的にとらえることができ，生徒にとっては励みになるものと考えている。

2　今後の課題

・研究主題を実践に移すために，本校生徒にとって伸ばすべき学力は何かを，今年度の実践等を踏まえて改めて明確にする必要がある。それを受けて各　教科では，どんな力を，どんな場面で，どんな方法を工夫して伸ばすのかとい　うことを確かにした上で研究実践に当たることで，生徒一人一人により確かな学力が定着するものと考えている。
・今年度の実践をさらに深め，生徒が課題をしっかり把握した上で，ねらいを確実に達成していくことが可能となる適切な教材や支援，学習形態などをさらに工夫改善していくことが必要である。
・生徒が課題を自分のものとして考え，意欲的に学習に取り組んでいけるようにするための手立てを考えていく必要がある。
・朝学習や選択教科の学習などとも関連をもたせた実践をすることで，確かな学力の定着における効果が高まると考えている。
・生徒の情意面の意識調査だけでなく，学力が定着したということを客観的にとらえることができる学習調査及び追跡調査が必要である。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・標準学力検査(４月)，秋田県学習状況調査(７月)の結果から，学習状況の実態を分析し，学習指導に生かしている。
・定期テスト及び各教科ごとに単元テストを実施し，学習状況の様子を把握することで，その結果を指導に生かすようにしている。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○公開研究会の実施
第１回公開研究会　平成15年10月29日(金)
【内容】国語・社会・理科・英語の授業提示と教科分科会
【参観者】47名（市内各校21名，フロンティアスクール校10名，他16名）
【目的】研究主題にもとづく各教科の実践について，授業提示を通して参観者から意見及び指導助言をいただき，今後の研究推進の参考とする。
第２回公開研究会　平成16年２月17日(火)
【内容】数学の授業提示と教科分科会・他教科の一般授業
【参加者】31名（市内各校19名，フロンティアスクール校３名，他９名）
【目的】第１回と同じ

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☒　１５年度からの新規校　☒　１４年度からの継続校

【学校規模】
- □　３学級以下
- □　４～６学級
- □　７～９学級
- ☒　１０～１２学級
- □　１３～１５学級
- □　１６学級以上

【指導体制】
- ☒　少人数指導
- ☒　ＴＴによる指導
- □　その他

【研究教科】
- ☒　国語
- ☒　社会
- ☒　数学
- □　理科
- ☒　外国語
- □　音楽
- □　美術
- □　技術・家庭
- □　保健体育
- □　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】☒　有　□　無